

*Streptococcus pyogenes*の関与を疑う黒毛和種の
血色素尿症

丹後家畜保健衛生所

○岡田幸大 極山 太

【はじめに】 *Streptococcus pyogenes*は人では喉頭炎や猩紅熱、毒素性ショック様症候群の原因菌であり、溶血素、抗食菌因子、発熱毒素などを有する株の存在が知られている。今回、一和牛繁殖農家で*S. pyogenes*の関与を疑う症例に遭遇したので報告する。

【発生の概要】飼養牛3頭が40度を超える発熱、発汗と食欲低下を示した。うち2頭で血色素血症、血色素尿症を呈し、尿中から β 溶血性連鎖球菌を分離した。1頭目では白血球数漸減し、好中球の核左方移動は見られず、分離した菌は多剤耐性*S. pyogenes*であった。なお、PCR検査で尿中のレプトスピラは陰性であった。

【治療と対応】1頭目から分離した菌は管内未使用のセフトオフル(第3世代セフェム系)に感受性を有し、これを投与し治癒した。1頭目から2週間遅れて発熱した成牛2頭は、症状から続発と判断し、セフトオフルによる治療と同時に畜舎の清掃消毒を実施した。

【考察】*S. pyogenes*を原因とする牛の血色素尿症の報告はないが、既知の血色素尿を呈する疾病に本病態は該当しない。本症例で特徴的な血色素尿、発熱、発汗の症状はセフトオフルの投与後に消失したことから*S. pyogenes*が産生した溶血素と発熱毒素群の関与を疑う。また、1頭目では抗食菌因子により白血球数の上昇が無かったものと推察する。